

「ネット社会の歩き方」教育指導カリキュラム及び体験ソフトの開発 - ネット社会を「安全に、楽しく」歩く知識を身につけるために -

高等学校 1 年ゼミ「インターネットで情報発信」

清泉女学院中学高等学校

倫理科 土屋 至

itaru@seisen-h.ed.jp

<http://izumi.seisen-h.ed.jp/>

キーワード ネット社会, インターネットショッピング, 誹謗中傷, 知的所有権, チャット, 電子掲示板, ウィルス, マルチ・ネズミ講, なりすまし, 雲隠れ, クレジットカード, 個人輸入, 総合的な学習

1. 開発の目的

急速に進みつつあるネットワーク関連技術の進化とその普及により, 大人から子供まで様々な場所でインターネット関連情報サービスを利用する機会が増えてきた。その中で子どもたちがその利用にあたって被害にあったり, 本人の自覚のないまま, 他者やネットワークに害をおよぼす可能性も考えられるようになってきた。

このためにも, ネット社会における一定のルールを教える必要性は高く, 学校教育はもとより, ネット教育のできない家庭からのニーズも強まっているのが現状である。そこで, 児童・生徒が教室で可能な限りリアルな情報社会との接触を体験し, ネット社会を「安全に、楽しく」歩く知識を身につけるためのカリキュラムとソフトウェアを開発し, その成果を利用した授業を実践する事を目的とした。特に日々実践を試みている小, 中, 高の情報教育の担当者が, 実際に授業でどう使うかということを想定しながら, 共同作業によって開発したものであることを付記しておきたい。

2. 教材の内容

2.1 カリキュラム

それぞれの学習テーマに応じて, どのソフトウェアを利用して, どのように授業を進めるか指導資料(学習事例)を用意した。学習テーマが現在の学習指導要領に準じていない部分もあり, 教える側にも十分な知識や資料が無いケースがあり, できるだけ参考データのURLも掲載し, 授業で活用できるようにつとめた。

2.2 ソフトウェア

学習ユニット: それぞれの学習テーマに関連したムービーを児童・生徒が見て, 問題点を発見したり, 何故そのような問題点が発生したのか, 原因を考える。また, 問題が発生した場合の対処方法について話し合ったり, 調べたりしながら, ネット社会でのいろいろな知識を身に付けるための糸口とする。

テーマとして次のような場面設定となった。

- ・個人情報の保護 ・チャットの危険性 ・ウィルス ・誹謗中傷 ・責任ある発信 ・知的所有権の保護
- ・なりすまし ・カードの不正利用 ・雲隠れ ・マルチ・ネズミ講 ・海外接続ソフトのダウンロード
- ・違法商品の個人輸入 ・入力ミスによる発注 ・賭博行為

電腦商店街: それぞれの商店でショッピングを体験し, 気を付けるべき事柄を知る。ショッピングサイトを選ぶポイントや問題点が発生した場合の対処方法, 注文する時の注意点などが体験をとおして身に付ける。

2.3 学習の進め方

この教材を用いて, いくつかの授業展開が考えられる。

第一に, 普通の教室にプロジェクターを持ち込み, ひとつのスクリーンを皆で見ながら話し合う。教える側がそれぞれの場面ごとに簡単に説明を加えながら, 生徒に問いかける。

第二に, グループでひとつの画面を見ながら, 与えられた「問いかけ」について話し合い, そこで出された児童生徒の意見をワークシートや「掲示板」「アンケート」に記入する。

第三に, ひとりひとりがそれぞれのコンピューターで, 自分のペースでムービーを見ながら, ひととおり見終わった時点で「アンケート」に記入し, 話し合いにきりかえる。

教える側の「問いかけ」については次のようなことが考えられる。

- ・(ある場面でムービーをとめて) この後にどのようなことが起こるであろうか?
- ・何が, どうしてこのようなことを引き起こしてしまったのか?
- ・このようなことが起きてしまったときにはどう対処したらいいのか?
- ・このようなことを避けるにはどうしたらいいのか?
- ・どのような「良い点・便利さ」があり, これをうまくつかうとどういうことができるだろうか?

それぞれの場面に応じて, どのような授業展開や問いかけ方が有効かを考えつつ, 活用するとよい。

その参考にするためにそれぞれ「学習指導案」を付記してある。

「アンケート」も用意され, 他の学校ではどのような授業を展開し, 児童・生徒たちはどのような意見を出してあるかもネット上から見る事ができる。

E スクエア・プロジェクト成果発表会

さらに、関連するウェブページのURLリンク集も用意されているので、グループや個人でテーマを発展させるための研究にも役立つであろう。

2.4 家庭での利用について

学校の授業で活用するだけでなく、家庭で親と子がともに見ながら話し合うためにも使うことができる。

開発されたソフトウェアを一度ダウンロードし、インストールして、ローカルな使用も可能である。

3. 実践授業の内容

3.1 清泉女学院中学高等学校の場合

高校1年生女子の「インターネットで情報発信」というゼミ（希望者40名によるクラス）で2回にわたり、この教材を使用して授業を試みた。

1回目の授業では、まず「学習ユニットのひとつ」を選び、それをプロジェクターに投影して、皆でそれを見ながら、とことところ生徒に問いかけを發した。そこで話し合ったこと、考えたことをアンケートに記入した。さらに残った時間で、他の「学習ユニット」から興味あるテーマを選び、それぞれ見て話し合いながら、アンケートに記入するという方法で試みた。

2回目の授業では「電腦商店街」を訪れ、それぞれ、「オンラインショッピング」を体験した。なぜこうなってしまったのかを結構にぎやかに話し合いながら進め、原因が分かったときや、うまくいったときには随所から歓声があがり、いわばゲーム感覚で楽しみつつ、進めることができた。

本校では2人で1台のコンピューターを使用しているので、2人で話し合いながら「アンケート」に記入している。ただ、20台あまりが一斉にアクセスするかたちになるので、反応が遅くなる。反応を待っている間に「このようなオンラインショッピングを体験するときにはどういうことに注意したらいいか」を考え、2人で話し合うように指示した。

高校生には、ムービーの絵が少し幼いかなと思われたのだが、それでも結構楽しみつつ学習していたであろう。単に静止画で見せるのではなく、動きのあるムービーだったので、先ずそのことに興味を持ったようである。こういうアニメ風の絵はどのようにつくるのかということについても質問された。

3.2 山梨大学教育人間科学部附属中学校の場合

1年生1クラス、2年生1クラスに対して、電腦商店街を利用した授業を行った。

教材の有効性について：疑似体験により、主体的な生徒の活動時間があるので、授業しやすい。学習プリントをみると、その半数ぐらいに、インターネット通販の注意点として、「よく条件や文章をみる」などの基本的な態度にかかわる記述があり、指導の工夫によって、より、効果的な学習材として発展する可能性がある。

興味関心について：疑似体験できるという導入の話に、生徒の期待する反応が見られた。サイバー調査官であるという想定によってか、かなり批判的にwebページの内容を分析する態度が見られた。架空の個人情報を入力する場面では、いろいろと入力して楽しそうであるが、無駄に時間を費やす場面も見られたり、まさに「やりすまし」の問題も生まれた。 「よく問題に気が付きました」という画面表示に素直に喜ぶ女子生徒もいた。中学1年生は、ありえない巨大な注文数を入力してみたり、文章を読まずに結果を急いだりする傾向が多かったが、このことを2年生に話したところ、慎重に条件や購入手続きの文章に目を通し、「まずだまされない」という態度で慎重に進めていた。「やった、予想通りだ」と自分たちの分析が正しかったことを喜んでいる生徒も見られた。

3.3 大津市立瀬田小学校の場合

大津市立瀬田小学校では6年生の1クラスの児童が、学習ユニットを活用した授業を2回に分けて取り組んだ。1回目は、各班ごとに基本の部分の学習ユニットを担当して、そのアニメーションを見てどのように考えるのか発表する、いわゆるバズセッション形式で行った。授業の導入部分では、インターネットを使って起こっている様々な社会問題や詐欺行為について話し合った。小学生なので具体的な事件や事例はそれほど詳しく知らなかったが、児童名簿を聞き出す電話などが実際によくかかってくるので個人情報の保護についてはどの子も関心が高かった。2回目の学習では、主に学習ユニットの応用のページを使うことにした。子どもたちをプロジェクターの前に集めて教師がアニメーションを紹介しながら、適宜解説を加えて話し合う形式で学習を進めた。

授業を終えて思ったことは、この種の学習は小学校でもすぐに取り入れるべき内容であることが分かった。それは、情報モラルの問題が将来の問題ではなく、今ここにある問題として考えていかなければならないと思えたからである。家庭でのインターネットの利用が進み、今や学校以上に情報環境が整い、子どもたちは続々とネットワークに参加してきている。使い方を一歩間違えれば取り返しがつかないことになることを子どもたちに教えるのは教師としての責務だと思う。今後の改善の方向としては、より現実に起きそうな事例を集めて学習内容の選択肢を増やすことが必要であるだろう。また、BGMや効果音、ナレーションなどを加えることができるとより洗練された教材になるだろう。



清泉女学院中等高等学校 授業風景



山梨大学教育人間科学部附属中学校 授業風景